

**頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム
—アジア・アフリカ持続型生存基盤研究のためのグローバルプラットフォーム構築—
報告書**

**アジア・アフリカにおける持続型基盤の発展に寄与する
ものづくり研究の可能性**

派遣者：金子 守恵

派遣期間：2012年12月23日～2013年1月7日

派遣先：アジスアベバ大学南オモ研究所（エチオピア連邦共和国）

キーワード：在来知の共有と配分、製作、流通、アフリカ・オリエンタル研究所、技術の導入と定着

1. 研究課題について

アジア、アフリカに暮らす人びとは、地域の自然環境、コミュニティ内の社会関係、さらには外部との交流にあわせて、日々の生活に必要なもの（＝日用品）をつくりだしてきた。この研究では、ローカルな技術的实践とグローバルな環境変化や社会的な制度が交差する場としてのものをつくる身体（技法）に注目し、コミュニティにおける知（＝在来知）の共有と配分の過程を描き出すことによって、アジア・アフリカにおける持続型生存基盤の発展に寄与することをめざす。具体的には、①調査研究、②共同研究／協働、③研究発信の3点に留意して研究課題を遂行する。今年度は、②海外の研究機関との共同研究／協働についての可能性を模索することと③国際学会での発表を介した研究発信に取り組む。

2. 派遣の内容

2012年12月23日～2013年1月7日まで、エチオピア、アジスアベバ大学社会学部マモ・ヘボ博士とアフリカの持続型基盤の発展に寄与するものづくりとその製作物の流通に関して今後の共同研究の可能性をさぐる議論をおこなった。また、アジスアベバ大学に、アフリカ・オリエンタル研究所が設置されたことにより、マモ博士のほか、ゲブレ博士と将来的な共同研究の可能性も含めて、同研究所の主な活動内容や指針について情報を得た。今回の渡航は、今年度計画している研究活動のなかでも、②海外の研究機関との共同研究／協働についての可能性を模索することにかかわる。その後、南オモ研究所において、調査地域においてあらたに結成された学生グループによる在来植物を利用したものづくりに関わる技術や知識、さらにはその製品の流通について継続調査をおこなった。

3. 派遣中の印象に残った経験や体験

派遣者は、2008年8月から調査地の人びととともにエンセーテの繊維の製作に取り組んでいる。これまでも、ワークショップなどを単発的に実施してきたが、2012年8月からは調査地の人びとがより持続的に製作活動に取り組むことを目指している。今回の継続調査では、2012年8月にあらたに導入したエンセーテ製品の製作技術が、どのように継続的に実践されているか、また最終的な製作物がどのような状態にあるのかに注目した。

製作グループのおもなメンバーは、10代の若者であり就学中のものがほとんどであるので、8月とは異なり通学中に製作活動をおこなうため、製作量は相対的に少なくなっていた。また、3種類の製作物のうち（繊維をつかった紙、その紙をつかったポストカード、そして乾燥した葉をつかったリング）、ポストカードの製作において、定着していない技術が散見されたが、8割以上は販売に耐えうる完成度

であった。

このような製品と技術の定着に関する調査をおこなうと同時に、派遣者をはじめこの地域に研究者がいなかった期間における、メンバーの参加の程度や製作グループの道具の使い方、期間中に生じた問題について聞き取り調査をおこなった。作業時間にメンバー全員があつまらないことや、リーダー不在時の問題などが提起されたおもな問題点であった。これに対して、リーダーとメンバー、また、このグループの設立時から立ち会った村役場のひとたちのたちあいのもの、これまで決めたしくみを改善したり、再度ルールを確認するなどのことをおこなった。グループ設立から約半年がたち、メンバーのあいだで了解すべき点が再確認され、より継続的な活動と、製作にかかわる知の共有と配分が可能になるような、コミュニティが形成されているという印象を強くもった。

4. 目的の達成度や反省点

今回は、アジスアベバ大学のマモ博士とアフリカの持続型基盤の発展に寄与する製作物の流通について議論を深めることができた。エチオピアは、約10年前と比べると10倍以上物価が高騰している。このような状況において、派遣者とは異なる地域で同様の関心をもって調査研究をすすめているマモ博士とともに、製作物をはじめとしたものの流通と取引、また、そこに関わる人びとやその知というものの状況について理解をすすめることができたのは非常に有意義であった。これをもとに、ワークショップ等を企画することも今後の計画のひとつに組み入れることを検討しはじめることができた。反省点として、製作と流通の場面を分断させずに連続してあつかうための見方やアプローチについて今後検討すべきと考えている。

5. 今後の派遣における課題と目標

今回は、アジア・アフリカにおける持続型生存基盤の発展を考えるうえで重要な製作物の流通に関して今後の共同研究の可能性をさぐることができた。ものの製作と流通は、同じものを対象とした人びとの行為ではあるが、流通はより現金経済による影響が強くあらわれるため、製作とは異なる見方で共同研究を遂行する必要があると同時に、製作との連続性についても念頭において共同研究の可能性を模索する必要があると考えており、今後の派遣において共同研究について議論をおこなう際には、その点が課題であり、達成すべき目標であると考えている。



写真1 村の子どもたちはエンセーテ繊維や乾燥した葉をつかって製品を製作しつづけていた



写真2 博物館におかれた村の子どもたちがつくったエンセーテ繊維製品



写真3 博物館には、地元の学生が見学に訪ねてきていた